

AI技術で医療現場の業務効率化を支援する革新企業

インタビュー

NeoX株式会社



<https://www.neox-inc.com/>

<https://www.yakumaru.ai/>

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー 2F

・設立：2016年12月

・代表者：何書勉

・資本金：500万円

・事業内容：実世界における視覚情報に対する理解・分析を目的とする人工知能技術の研究開発

社名の由来と企業理念

NeoX株式会社は、2016年に設立された最先端のAI技術を駆使し、医療現場のデジタルトランスフォーメーション（DX）を加速させるパイオニア企業です。社名には「Neo（新しい）」と「X（未知・変数）」を掛け合わせた意味が込められており、未知の課題に挑戦し、革新的な技術で社会に貢献するという企業理念を持たれています。代表の何書勉氏は京都大学でマルチメディアデータベースを研究され、そこでの実世界の視覚情報を理解・分析するAI技術の研究がNeoXの技術開発の核となっています。

また、NeoXの開発体制は日本と上海にあり、上海ではインターフェースや非個人情報領域の開発を担当し、日本では個人情報情報を扱うコア部分の開発を行うことでセキュリティと効率性を両立し、日中連携により高品質なサービス提供を実現しています。

主な事業領域

NeoXは、医療業界向けのAIソリューションを中心に事業を展開しています。もともと医療業界をターゲットにしていたわけではなく、知人との雑談のなかで、処方箋の手入力に膨大な時間がかかり、入力ミスによる調剤過誤が頻発しているという現場の深刻な課題を知ったことがきっかけでした。「困っている人を助けたい」という純粋な思いが、同社を医療DXの道へと導き、その偶然から医療イノベーションが生まれたのです。

主力製品「薬師丸賢太」シリーズ

「薬師丸賢太」は、NeoXの主力製品であり、調剤薬局の処方箋入力業務を劇的に変革するAI OCRサービスです。紙の処方箋をスキャナーに通すだけで、平均11～12秒という驚異的な速

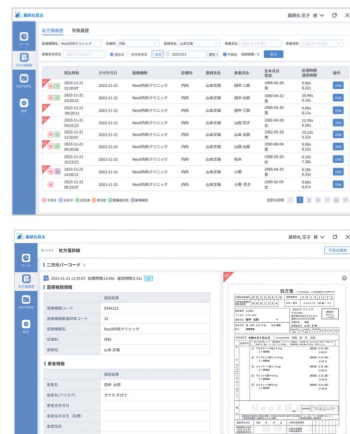


図1 AI-OCR処方箋自動入力「薬師丸賢太」操作画面

度でデータ化し、レセプトコンピューターに自動で取り込みます。その精度は99.8%に達し、手入力によるミスや調剤過誤のリスクを大幅に削減します。さらに、全国10万件以上の医療機関の多様な処方箋フォーマットに事前の設定なしで対応できる独自技術は、特許を取得しており、他社には真似できないNeoXの強みです。

既に全国6000店舗以上の調剤薬局に導入されており、あらか



図2 「薬師丸賢太」のイメージ



図3 処方箋の読み取りから受付・調剤まで、薬局全体の業務をシームレスにつなぐトータルシステム「スマート薬局」

るレセコンでの実績があります。24時間365日稼働するため、薬局スタッフは入力作業から解放され、より患者とのコミュニケーションや専門業務に集中できるようになります。これにより、人件費の最適化と、調剤過誤防止による患者の安全確保という、薬局経営における二大課題に貢献しています。

ちなみに、「薬師丸賢太」という名前の由来は、薬局で従事することから薬師丸とし、AIで学習して賢くなっていくイメージから賢太としています。

また、その他の製品として、薬局の棚卸しなどで必要となる錠剤やカプセルの数カウントをスマートフォンで瞬時に行う「薬師丸数子」があります。トレイに並べられた1000錠以上の錠剤をわずか1秒で正確に数えることができます。

他にも、薬局の受付業務をタブレットで自動化する「スマート薬局」は医療現場の課題に寄り添ったサービスとして展開しています。本サービスにより患者はスタッフとのやり取りなしに受付を完了でき、これによりスタッフの負担を軽減し、人員の効率的な配置を可能にします。さらに、患者の待ち時間ストレスを軽減するため、自身の処方箋状況をスマートフォンで可視化、薬の完成通知を受け取る機能も構想されています。将来的には、薬局全体の業務データをデジタル管理し、本部が各店舗の待ち時間を比較・分析することで、人材配置の最適化や収益改善に貢献、オンライン服薬指導やスマホ決済完結といったICT機能の強化も視野に入れ、薬局業務の包括的なDX推進を目指しています。

JIIMA入会の目的と今後の展望

現在、調剤薬局がメイン事業ですが、NeoXは既にクリニックや病院からの相談も多く受けており、医療現場全体の業務効率化を目指してサービス提供を拡大する予定です。医療現場の

「疲弊」を肌で感じているからこそ、AIを活用して本質的に業務を軽くしていくことに注力しています。

NeoXは、自社の核となる物体認識ソリューション、AI、そしてデータベース構築・活用技術を組み合わせることで、医療業界に留まらず、世の中のどんな課題でも解決できると考えています。「開発できないものはこの世にない」という代表の信念のもと、課題がある分野であれば、積極的にピボットし、新たな事業領域へ参入する可能性を秘めています。

処方箋原本の電子化が薬局現場にもたらす計り知れないメリット（保管場所の削減、手間・コストの削減、検索性の向上、業務効率化）を強く認識しています。この実現には、技術開発だけでなく、国の制度や規則の変革が不可欠です。そのため、同社はJIIMA（日本文書情報マネジメント協会）の医療市場委員会に積極的に参加し、制度面での提言活動を通じて、業界連携を行い処方箋原本電子化の実現と医療現場全体のDX推進に貢献しようと考えています。

NeoXは、最先端のAI技術と「困っている人を助ける」という強い使命感を原動力に、医療DXの最前線を切り拓いています。その革新的な製品群と、業界の常識にとらわれない柔軟な発想、そして圧倒的な開発スピードは、日本の医療現場に新たな価値をもたらし続けています。技術と政策提言の両面から、医療従事者の負担を軽減し、患者の体験を向上させることで、NeoXはAIが人々に寄り添い、より良い社会を築く未来を描いています。



「薬局業界や医療業界のベンダー企業とうまく協業し、日本全体に医療DXが広がっていけばと思っています」と語る長井氏